

基準		2023(令和5)年度 大学基準協会による外部評価	2024(令和6)年度 自己点検・評価(2023年度の活動評価)
基準1 理念・目的	点検・評価項目	2023(令和5)年度 大学基準協会による外部評価	2024(令和6)年度 自己点検・評価(2023年度の活動評価)
	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	建学の精神を踏まえて、大学の教育理念・教育目標及び学部・研究科の目的を適切に定めていると判断できる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	② 大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	学部・研究科の目的を学則等に明示し、教職員及び学生に周知するとともに、大学の教育理念・教育目標を含め、大学ホームページを通じて社会に対して適切に公表しており、適切と判断できる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
基準2 内部質保証	③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として特色を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	大学の将来を見据えた中期計画その他の施策を適切に設定し、展開している。なお、18歳入の低下や医療における薬剤師の役割が大きく変化していることより、10年以上先を見据えた教育政策計画が重要との認識を大学自らも持っていることから、より長期的な計画について今後の検討が期待される。	本学理事会は任期(4年間)毎に中期計画を定めており、教学運営はこれに従って実施されている。これを超える長期の計画は、大学を取り巻く社会状況に対応したものである。即ち、18歳入の減少にどう対応するかと学生獲得競争の激化と、薬学科においては今後一層重視されるであろう医療人としての薬剤師教育の重視である。これらの状況に対応して社会が求める魅力ある教育内容の実現のために、長期的視点を持った研究組織改革を目指した外部識者の意見を聞く機会が令和6年度(2024年度)から設けられた。以上のことから、より長期的な計画においても改善がなされていると評価できる。
	① 内部質保証のための全学的な方針及び手続を明示しているか。	内部質保証のための全学的な方針及び手続を策定し、学内構成員に共有を図っている。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	② 内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備しているか。	内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を設けている。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
基準3 教育研究組織	③ 方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	2020年度からは新たな仕組みを見直して取り組んでいるもの、2023年度にその結果に基づく改善につなげる取り組みを部分的にはじめたばかりである。今後は、全学的な点検・評価の結果から改善につなげていくために、フィードバックや支援の方法を確立し、内部質保証システムを有効に機能させることが求められる。なお、「内部質保証委員会」から学長へ提言した内容には、課題に加え、「点検・評価報告書」の誤記の修正といった同報告書の書き方に関する内容も含まれており、学長への提言内容を実質化させることで、大学の改善・向上につながる提言となることが期待される。	新たな内部質保証組織体制及び自己点検・評価シートが導入され、「学長→学内常置/設置委員会→自己点検・評価委員会→内部質保証委員会→学長」のPDCAサイクルが確立・明確化された。今後、この新規PDCAサイクルを基にして、内部質保証システムを有効に機能させることが求められる。
	④ 教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか。	教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしている。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	⑤ 内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	2020年度からは新たな仕組みのもと、「内部質保証委員会」で点検・評価を行い、「内部質保証委員会」がその結果から、内部質保証体制の見直しを学長へ提言した段階であるが、これを改善するためのフィードバックや支援を行う方法が確立されていない。大学全体のPDCAサイクルを機能させ、現在の内部質保証システムの仕組みや状況などを点検・評価する仕組みを検討するなど、改善・向上につなげていくことが望まれる。 [改善課題]2020年度からの内部質保証システムにおいて、毎年度点検・評価を行い、その結果に基づく提言を学長へ行う段階までは取り組んでいるものの、学長から学内の常設の委員会等への改善に向けたフィードバックや支援を行う方法が確立されていない。大学全体のPDCAサイクルが機能するよう仕組みを検討し、それを実質的に機能させ、教育研究などの改善・向上につなげるよう、改善が求められる。	新たな内部質保証組織体制及び自己点検・評価シートが導入され、「学長→学内常置/設置委員会→自己点検・評価委員会→内部質保証委員会→学長」のPDCAサイクルが確立・明確化された。今後、この新規PDCAサイクルを基にして、内部質保証システムを有効に機能させることが求められる。
基準4 教育課程・学習成果	① 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附属研究所、センターその他の組織の設置・施設は適切であるか。	教育研究組織は、大学の教育理念・教育目標及び社会的要請、国際的環境へ配慮しており、適切であると判断できる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	2020年度からは新たな内部質保証システムのもとで、「自己点検・評価委員会」で点検・評価を行い、「内部質保証委員会」がその結果から、各研究員に教員を3名配置する体制を実現する必要性を学長へ提言した段階であるが、これを改善するためのフィードバックや支援を行う方法が確立されていない。今後は、教育研究組織の適切性についての点検・評価に関する大学全体のPDCAサイクルを機能させ、全学的な点検・評価のもとで改善・向上につなげていくことが望まれる。	新たな内部質保証組織体制及び自己点検・評価シートが導入され、「学長→学内常置/設置委員会→自己点検・評価委員会→内部質保証委員会→学長」のPDCAサイクルが確立・明確化された。今後、この新規PDCAサイクルを基にして、研究員3人体制の充実など、教育研究組織の改善・向上につなげていくことが望まれる。
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位にふさわしい授業科目を開設し、体系的な教育課程を編成している。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
基準5 学生の受け入れ	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	学部及び研究科のいずれも、学生の学習を活性化するための様々な措置を講じ、概ね適切と判断することができ、大学として授業外学習時間が不足していると認識していることから、授業外学習時間の質的・量的増加につなげて継続した改善の検討が期待される。また、研究科については、研究指導の方法やスケジュールを定めていることが求められる。 [是正勧告]薬学研究所生命創薬科学専攻博士課程(前期)・(後期)及び同薬学専攻博士課程では、学位取得までのスケジュール及び指導方法を定めていないため、これを定めあらかじめ学生に明示するよう、是正されたい。	(学部)授業外学習時間の不足傾向に対して、どのような量的・質的に適当な学習課題を提示すべきか課題であり、検討が必要である。 (大学院)学位取得までの標準的なスケジュールがフローチャートとして作成され、入学時のオリエンテーションで配付されることになったことから、改善に向かってると評価される。
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学部・研究科ともに成績評価、単位認定及び学位授与は、概ね適切に行っていると判断できる。今後は、大学院における特定課題研究の審査基準の明示について、検討を重ねて取り組むことが求められる。 [是正勧告]薬学研究所生命創薬科学専攻博士課程(前期)では、「明治薬科大学大学院学則」に特定の課題についての研究の成果の審査をもつて、修士論文の審査に代えることができることを規定しているが、その審査基準を定めていないため、審査基準を定め公表するよう、是正されたい。	(大学院)「特定の課題についての研究の成果」に関する審査基準が策定され、HPIに公表され、検討されている。 https://www.miy-pharm.ac.jp/gs/lps/pdf/2024_judging_criteria.pdf
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	学部における学習成果の把握については、取り組みは見られるものの、いずれも学位授与方針に示した学習成果を把握する方法としては十分とはいえないため、指標の見直しを含め、改善が求められる。 研究科においては、各科目の成績評価や学位論文審査を通じて学習成果の把握に努めている。しかし、学位論文審査基準は設けているが、同基準と学位授与方針に示した学習成果の関連性は不明瞭であることから、学位授与方針に示した学習成果と関係する指標を確立したうえで、測定に結びつくと改善が求められる。 [改善課題]学習成果の把握・評価に關し、学部では成績評価、「卒業研究」や「卒業生アンケート」を通じての把握に努めているが、「卒業研究」のルーブリックやアンケート項目が学位授与方針に示した学習成果と十分に対応していない。また、研究科では、成績評価や学位論文審査を通じて把握するとしているものの、審査基準等と学位授与方針に示した学習成果との関係は不明瞭である。そのため、学部・研究科ともに、現在の指標・測定方法等を見直し、学習成果の測定に結びつくと改善が求められる。	(学部)学部における学習成果の把握については、成績評価のほか、授業アンケートや「卒業研究」の成果、「卒業生アンケート」などから把握しているが、学位授与方針に示した学習成果を十分に把握できていない側面があることを認識し、改善のための方法を検討する必要がある。 (大学院)学位授与方針が改訂され、カリキュラムとの対応および到達目標が明確化されるとともに、それに対応するルーブリック評価表が作成され、これに従って学修成果が測定されることになった。従って、改善に向かってると評価される。
基準6 教員・教員組織	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	2020年度からは新たな内部質保証システムのもとで、「教務委員会」等で点検・評価を行い(実地2-3)、「内部質保証委員会」がその結果から、薬学部生命創薬科学科の学位授与方針における項目の記述の見直しを学長へ提言した段階であるが、これを改善するためのフィードバックや支援を行う方法が確立されていない。今後は、教育課程及びその内容、方法の適切性についての点検・評価に関する大学全体のPDCAサイクルを機能させ、全学的な点検・評価のもとで改善・向上につなげていくことが望まれる。	新たな内部質保証組織体制及び自己点検・評価シートが導入され、「学長→学内常置/設置委員会→自己点検・評価委員会→内部質保証委員会→学長」のPDCAサイクルが確立・明確化された。今後、この新規PDCAサイクルを基にして、教育課程及びその内容、方法について改善・向上につなげていくことが望まれる。
	⑧ 教育課程連携協議会を設置し、適切に機能させているか。(学士課程(専門職大学及び専門職学科)/大学院の専門職学位課程)	該当なし	
基準7 学生の受け入れ	① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	学生の受け入れ方針については、概ね適切に定め、また、入学志願者を含めた社会に対して公表しているといえる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学希望者を公正に実施しているか。	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を学部及び研究科ともに適切に整備し、入学希望者を公正に実施している。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	学部においては定員管理を適切に行っているものの、研究科において、適切な定員管理を徹底するよう、改善が求められる。 [改善課題]収容定員に対する在籍学生比率について、薬学研究所薬学専攻博士課程で2.20、同生命創薬科学専攻博士課程(前期)で2.00と高いため、大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。	(大学院)薬学研究所薬学専攻博士課程については、社会人大学院生が定員超過の原因であるため、志願者数の変化に迅速に、定員増の可否を検討する必要がある。同生命創薬科学専攻博士課程(前期)については、志望者が多いことから、適正な定員の見直しを検討しているところであり、速やかな改善が望まれる。
基準8 教員・教員組織	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	2020年度からは新たな内部質保証システムのもとで、「入試委員会」等で点検・評価を行い、「内部質保証委員会」がその結果から、適正な定員管理はできているものの、志願者減少に伴う合格者の学長へ低下の懸念を学長へ提言した段階であるが、これを改善するためのフィードバックや支援を行う方法が確立されていない。今後は、学生の受け入れの適切性についての点検・評価に関する大学全体のPDCAサイクルを機能させ、大学院の適正な定員管理などの改善・向上につなげていくことが望まれる。	新たな内部質保証組織体制及び自己点検・評価シートが導入され、「学長→学内常置/設置委員会→自己点検・評価委員会→内部質保証委員会→学長」のPDCAサイクルが確立・明確化された。今後、この新規PDCAサイクルを基にして、学生の受け入れについて改善・向上につなげていくことが望まれる。
基準9 教員・教員組織	① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	大学として求める教員像や教員組織の編制の原則を示しているものの、いずれも事業報告書や年度の予算編成方針に掲載されているため、中・長期的な視点から適切な媒体等での明示化が必要である。また、各分野の教員数及び構成の基準を明示していないため、各分野の専門性等を踏まえて、年齢構成、性別のバランス等を含め、教育課程を編成するにふさわしい教員組織の編制に関する方針を定めることが望まれる。	法人理事会は年2回財政上及び教学運営の監事監査を欠けている。監事からは教員の平均年齢の若返りを旨とした教員採用と女性教員比率の増加が求められている。今後は薬学科及び生命創薬科学科の専門性を踏まえて、年齢構成、性別のバランス等を含め、両学科の教育課程を編成することによる教員組織の編制に関する方針が大学ホームページに公開される予定となっている。引き続き、適切な媒体等へ教員組織の編制方針が明示されるよう求められる。
	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	法令に則り、適切な専任教員数を確保するとともに、教育研究活動にふさわしい教員組織を適切に編制している。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	③ 教員の募集、採用、昇任等について、規程に基づき実施し、「教員選考委員会」(大学運営協議会)、教授会、理事会での審議を経ており、透明性・公平性を担保した手続を実施している。	教員の募集、採用、昇任等については、規程に基づき実施し、「教員選考委員会」(大学運営協議会)、教授会、理事会での審議を経ており、透明性・公平性を担保した手続を実施している。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
基準10 教員・教員組織	④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	FD研修等により、教員の資質向上に取り組んでいる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	2020年度からは新たな内部質保証システムのもとで、各学部長等で点検・評価を行い、「内部質保証委員会」がその結果から、大学全体の専任教員1名あたりの学生数について、「教育環境の観点から比率を下げる必要性を学長へ提言した段階であるが、これを改善するためのフィードバックや支援を行う方法が確立されていない。今後は、学生の受け入れの適切性についての点検・評価に関する大学全体のPDCAサイクルを機能させ、全学的な点検・評価のもとで改善・向上につなげていくことが望まれる。	新たな内部質保証組織体制及び自己点検・評価シートが導入され、「学長→学内常置/設置委員会→自己点検・評価委員会→内部質保証委員会→学長」のPDCAサイクルが確立・明確化された。今後、この新規PDCAサイクルを基にして、ST比の改善など、教員組織の改善・向上につなげていくことが望まれる。
基準11 学生支援	① 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。	学生支援に関する大学としての方針を適切に明示していると判断できる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	学生支援に関する大学の方針に基づき、学生支援の体制を整備し、学生支援を適切に行っているといえる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	2020年度からは新たな内部質保証システムのもとで、「学生厚生委員会」等で点検・評価を行い、「内部質保証委員会」がその結果から、大学全体の専任教員1名あたりの学生数について、「教育環境の観点から比率を下げる必要性を学長へ提言した段階であるが、これを改善するためのフィードバックや支援を行う方法が確立されていない。今後は、学生の受け入れの適切性についての点検・評価に関する大学全体のPDCAサイクルを機能させ、全学的な点検・評価のもとで改善・向上につなげていくことが望まれる。	新たな内部質保証組織体制及び自己点検・評価シートが導入され、「学長→学内常置/設置委員会→自己点検・評価委員会→内部質保証委員会→学長」のPDCAサイクルが確立・明確化された。今後、この新規PDCAサイクルを基にして、学生支援活動の改善・向上につなげていくことが望まれる。

基準8 教育研究等環境	① 学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を明示しているか。	大学の教育理念・教育目標を踏まえた教育研究等環境に関する方針を適切に明示している。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	② 教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地及び校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設及び設備を整備しているか。	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地及び校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設及び設備を整備するとともに、教職員及び学生の情報倫理の確立に関する取り組みを適切に行っているといえる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	③ 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか、また、それらは適切に機能しているか。	図書館に十分な質・量の図書資料を整備し、体制も整備したうえで運営しているといえる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	④ 教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。	研究活動を促進させるための条件を適切に整備し、研究活動の促進に取り組んでいる。 〔長所〕薬学・医療の進歩に対処した教育研究の改革に取り組むことを示した中期計画に基づき、東学分野における専門性の高い学術雑誌・電子ジャーナルを豊富にとりそろえているほか、毎年の業績評価に基づき質の高い研究業績を有する研究室に研究費を傾斜配分することで教員の研究に対するモチベーションの向上を図っている。また、若手研究者の育成として、助教を含めた専任教員に地位・給与を保障しつつ海外留学に送り出すことを毎年行っており、これらの研究環境整備・活性化によって外部資金の申請件数・獲得件数が向上するなど、研究の高度化に寄与していることは評価できる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	⑤ 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。	研究倫理、研究活動の不正防止に関する取り組みを適切に実施している。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	⑥ 教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	2020年度からは新たな内部質保証システムのもとで、「予算・施設委員会」等で点検・評価を行い、「内部質保証委員会」がその結果から、中期計画を具体化した運営の基本方針・予算編成方針に関する取り組み等を概ね適切に実行していると学長へ報告した段階であるが、教育研究等環境の適切性についての点検・評価に関する大学全体のPDCAサイクルを機能させ、全学的な点検・評価のもとで改善・向上につなげていくことが望まれる。	新たな内部質保証組織体制及び自己点検・評価シートが導入され、「学長→学内常置/設置委員会→自己点検・評価委員会→内部質保証委員会→学長」のPDCAサイクルが確立・明確化された。今後、この新規PDCAサイクルを基にして、教育研究等環境の改善・向上につなげていくことが望まれる。
基準9 社会連携・社会貢献	① 大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。	大学ホームページにて公開しており、学内外に広く周知している。 以上のことから、社会連携・社会貢献に関する方針を適切に定めている。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	多くの外部組織と連携体制を構築し、数多くの地域・社会貢献活動を展開し、成果の社会還元に努めていることは特色といえる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	2020年度からは新たな内部質保証システムのもとで、「進路就職支援委員会」等で点検・評価を行い、「内部質保証委員会」がその結果から、地域・社会連携について、2023年度に整備される新たな組織のもと取り組みなどを学長へ提言した段階であるが、社会連携・社会貢献の適切性についての点検・評価に関する大学全体のPDCAサイクルを機能させ、全学的な点検・評価のもとで改善・向上につなげていくことが望まれる。	新たな内部質保証組織体制及び自己点検・評価シートが導入され、「学長→学内常置/設置委員会→自己点検・評価委員会→内部質保証委員会→学長」のPDCAサイクルが確立・明確化された。今後、この新規PDCAサイクルを基にして、社会連携・社会貢献に関する活動の改善・向上につなげていくことが望まれる。
基準10 大学運営・財務 (1) 大学運営	① 大学の理念・目的、大学の将来を見据えた中・長期の計画等を実現するために必要な大学運営に関する大学としての方針を明示しているか。	大学の教育理念・教育目標、大学の将来を見据えた中・長期の計画等を実現するため、大学運営に関する大学としての方針を適切に明示していると判断できる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	② 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。	学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示し、それに基づき適切な大学運営を行っているといえる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	③ 予算編成及び予算執行を適切に行っているか。	予算編成及び予算執行を適切に行っているといえる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	④ 法人及び大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な事務組織を設けているか。また、その事務組織は適切に機能しているか。	法人及び大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な事務組織を設けており、適切に機能しているといえる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	⑤ 大学運営を適切かつ効果的に行うために、事務職員及び教員の意欲及び資質の向上を図るための方策を講じているか。	事務職員及び教員に大学運営に必要な知識等の習得、資質向上について適切に行っていると述べる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。
	⑥ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	2020年度からは新たな内部質保証システムのもとで、「自己点検・評価委員会」で点検・評価を行い、「内部質保証委員会」がその結果から、中期計画やガバナンスコードのもと、機関の役割と権限が明確になっており、それぞれの職責を果たしていること確認している。 今後は、2020年度からの新たな内部質保証システムを含め、大学運営の適切性についての点検・評価に関する大学全体のPDCAサイクルを機能させ、全学的な点検・評価のもとで改善・向上につなげていくことが望まれる。	新たな内部質保証組織体制及び自己点検・評価シートが導入され、「学長→学内常置/設置委員会→自己点検・評価委員会→内部質保証委員会→学長」のPDCAサイクルが確立・明確化された。今後、この新規PDCAサイクルを基にして、大学運営・財務の改善・向上につなげていくことが望まれる。
基準10 大学運営・財務 (2) 財務	① 教育研究活動を安定して遂行するため、中・長期の財政計画を適切に策定しているか。	この中期計画を踏まえて毎年度の運営の基本方針・予算編成方針を作成しており、2022年度の前編成方針では「経常収支差額比率」についての目標を定めて、健全な財務運営に努めている。この数値目標は毎年度の前編成方針に示しており、2022年度の実績はこの目標を達成しているものの、中期計画には具体的な施策や数値目標がないため、中期計画に掲げた目標の達成に向けた、より具体化した財政計画を策定することが求められる。	引き続き、長期的に基本金組入前当年度収支差額がマイナスとならないように、学生確保の方策が設定されている。また学納金によらない収入確保の方策について検討されていることから、今後その方策の明示が望まれる。
	② 教育研究活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか。	教育研究活動を安定して遂行するために必要な財務基盤を確立しているといえる。	前年度と変わらず、適切であると評価される。